28R-am10

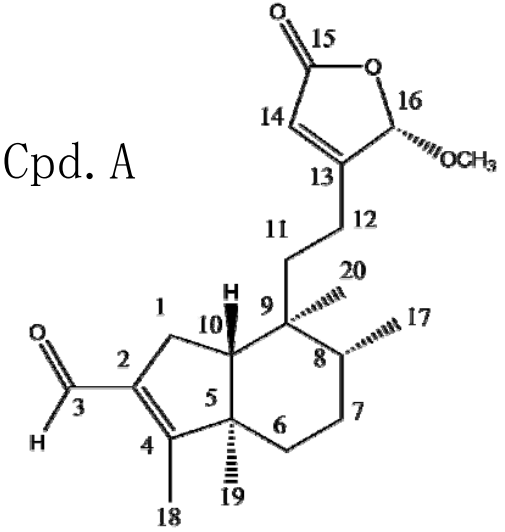
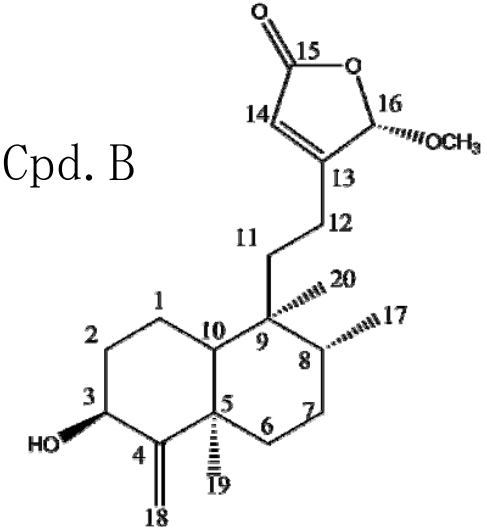
ダンギク（Caryopteris incana）地上部からの抗 Leishmania 活性成分の探索

○馬場 翔太郎[1], 宮崎 友里[1], 杉本 幸子[1], 山野 喜[1], 大塚 英昭[2], 松浪 勝義[1]（[1]広島大院医歯薬, [2]安田女大薬）

【目的】当研究室における熱帯・亜熱帯に属する植物について新規有用化合物の探索の一環として、今回ダンギク *Caryopteris incana* 地上部の成分研究を行った。

【実験･結果】乾燥させたダンギクの地上部（7.08 kg）の MeOH 抽出物を *n*-Hexane、MeOH で分配を行った。この MeOH 層を H_2O に懸濁させ EtOAc で抽出し、残った H_2O 層はさらに 1-BuOH で抽出した。各画分は A549 細胞増殖抑制試験及び、抗 *Leishmania* 活性試験を行うことで分離、精製の指標とした。その結果これらの画分のうち EtOAc 可溶画分（164 g）を、順相及び逆相クロマトグラフィー、ODS-HPLC により分離、精製を行い、新規化合物 2 種（Cpd A、B）を含む化合物 6 種を単離することに成功した。Conpound A および B は、NMR を中心としたスペクトルデータの解析により新規ジテルペンであると決定した。

Cpd. A



Cpd. B